

ロボット支援下仙骨脛固定術（RSC）手術

ロボット手術とは・・・

「ロボット支援手術」とは、執刀医がロボットを操作して行う低侵襲手術のことです。

当院では「ダヴィンチ」というロボットを使用しています。

「ダヴィンチ」は1999年にアメリカFDA（食品医薬品局）の許可を受けて以降、普及が進み、この手術を受けた患者さんも延べ500万人を超えています。（2017年12月末現在）

腹腔鏡下手術と同様に体に小さな穴をあけて行う手術で、より安全・正確に細やかな手術を行うことができるメリットがあります。

また術後も様々なメリット（疼痛が少ない・回復が早い）が期待できます。

「ダヴィンチ」には4本のアームがあり、それに付けられたカメラと3本の鉗子を体内に挿入し、執刀医は3Dモニターを見ながら我々医者がロボットを操作します。

「ダヴィンチ」の利点は、人の手以上に関節が自由に動くため、狭い空間で細かい手術が可能なこと。手先のブレを抑える機能や3Dカメラによる立体的な拡大視野も備わっています。

「ダヴィンチ」を利用して手術を行うことで、開腹手術では不可能であった細かい神経の剥離や正確な縫合が可能となりました。



実際の手術

ロボット手術ってちょっと怖い…？！

先にも述べた通りロボットが勝手に手術するわけではなく、あくまで我々経験豊富な医師が操作します。

2013年12月より泌尿器科が手術支援ロボットを導入して前立腺癌手術を行っています。婦人科領域においては2018年4月に子宮全摘出術、子宮体がん手術が保険の適用対象となったことから導入開始しています。

RSCは2020年4月から保険適応の手術になりました。当院では保険適応に先駆けて、倫理委員会承認の下に2019年7月から開始しました。

従来から行われていた骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨腔固定術（LSC）の手術経験、豊富なロボット手術の経験があるため、スムーズに導入でき2020年10月現在で50症例を超えています。

従来の腹腔鏡手術に比べて細やか且つ正確な操作がしやすいため、より精度の高い手術が可能です。手術時間は約2時間～2時間半です。

手術の内容

麻酔科医師による全身麻酔にて施行します。

腹部に5か所の穴をあけて、トロッカーと呼ばれる細い筒を挿入します。炭酸ガスで腹腔内を拡げて、手術を行うスペースを作ります。

先のトロッカーにロボットを接続させてカメラやロボット鉗子を腹腔内に挿入します。

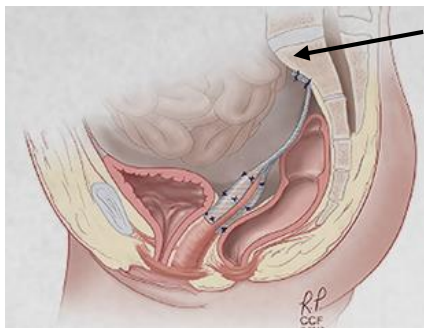
腹腔内で子宮の周囲を剥離し、子宮を支持している靭帯や子宮を栄養する血管の切断を行います。子宮は腔上部切断術（子宮体部のみ摘出し、子宮頸部は温存）を行いますが、症例に応じて子宮全摘する場合もあります。また基本的に子宮に付属している卵管は同時に摘出し、卵巣は閉経後（65歳以上）の方は摘出しています。

膀胱と腔の間を剥離して、メッシュを入れる空間を作ります。メッシュを膀胱と腔の間に挿入し、メッシュを腔断端もしくは子宮頸部に縫合固定します。メッシュの先端を仙骨（腰骨）前面の靭帯に固定します。

症例に応じて膀胱と腔の間にメッシュを入れる他、腔と直腸の間にもメッシュを挿入することがあります。

子宮の摘出する方法は腔から、もしくは腹部の創部の1か所を広げて摘出します。

麻酔中の尿量をモニターするために尿道カテーテルを留置しますが、基本的に翌日抜去します。



仙骨(前縦靭帯)

world of urologyより抜粋

入院生活（予定）

手術前日	午後に入院していただきます。骨盤底筋体操指導が始まります。
手術日	手術の後はベッド上安静で、1日禁食です。
手術後1日目	離床（歩行開始）、尿道カテーテルを抜去します。 食事も再開となります。
手術後2日目～	特に制限は有りません。
手術後5日目以降	退院